

「もう、始まっている」

イザヤ書 43 章 19 節

聖学院大学 学生

私はクリスチャンホーム(両親がクリスチャンの家族)の元に生まれました。そのため幼い頃から教会に行っています。私の行く教会では、幼稚園前の子どもから、おじいちゃんおばあちゃんまで、幅広い世代の人が集まっています。その中で、地区の教会と連携を取り、世代ごとに聖書を学び共に生活をするキャンプを行っています。

今年の夏は、福音自由 70 周年記念プレ大会として、全国の中学生・高校生が集まる大規模のキャンプがありました。私はこのキャンプにグランドワーカーとして参加させて頂きました。グランドワーカーとは、いわゆる裏方で、各プログラムの準備をしたり、色々な場面でサポートをしたりする役割を持っています。加えて、賛美チームとして全体の前で歌うコーラスもさせて頂きました。5 年前にはキャンパー、キャンプに参加する側だった私が、運営側として中学生・高校生と共に聖書を学び、支える立場と変化したことに、自分はしっかりと動けるか、支えることができるのかといった不安や戸惑いがありました。

グランドワーカーは、会場準備として椅子を約 300 以上用意、撤収、照明・音響、夏のため大型扇風機の準備、力仕事、また、間の時間に賛美チームの練習(全 6 回・18 曲)をするなど、なかなかハードなスケジュールでした。大変な事の要因の 1 つとして、集まっている人のほとんど全員が当日に顔合わせをしたということです。慣れない環境、よく知らない人たちと協力をして運営する、中学生・高校生が過ごしやすく、聖書のお話をよく聞くことが出来る環境を作るための働き、それぞれが簡単なことではありませんでした。普通は連携が上手に取れなかったり、予期せぬ出来事が起こり、慌てて焦ってしまったりします。しかし、そのような大きな問題が起こることなくキャンプは進んでいきました。これは神さまが守ってくださったからなのだと思います。なぜなら、毎日牧師先生、スタッフのみんな、グランドワーカーがこのキャンプが守られ、1 人でも多くの中高生が神さまの事を知る機会として用いて下さり、神さまと共に歩むことが出来るように祈っていたからです。参加者だけではなく、子どもをキャンプに送り出してくれた家族の方々やキャンプを覚えて下さり祈り続けてくれた教会の方々。多くの人たちの祈りと支えによって、300 人規模のキャンプが無事進み、終えることが出来ました。

また、今回のキャンプのテーマは「もう、始まっている」でした。二人の講師の先生をお呼びして、計 4 回のメッセージを聞くことが出来ました。メッセージも少し分かち合いたと思います。最初の 2 回は、ルカによる福音書 15 章 11 節から 32 節までの、放蕩息子として有名な話からでした。このお話では、裕福な家で育った二人の兄弟がでてきます。兄はまじめにお父さんの下で働き、弟はやりたい放題で、お父さんから財産を先にもらい家を出ていきます。しかし、お金はいつかなくなるものです。お金があるときは付き合いの良かった友人たちは、お金が無くなった途端に離れていきました。裕福だった

生活が一気に貧しく誰も助けてくれない、そんな状況になった弟。どうすることもできず、家に帰ることを決意する弟。あなたは財産を先にもらい、使い果たした息子を受け入れることはできますか？

放蕩息子の話はこの弟がメインになりがちですが、兄についても語られています。兄はずっと言うことを聞いて、わがままも言わず仕事をしてきました。でも、自分にはなにもくれない。兄のように思い、考えることはありますか？この時に私が深く考えたことが一つあります。いやいやながら言われた仕事をしたり、自分と他の人を比較してずるいと感じたり、自分は正しいことをしているのになんでやらないのと文句を言うことがあったからです。そのとき、本当に自分は何ももらっていないのかと考えました。

もし、興味があれば、物語としてこの章を読み、次に自分の立場に置き換えて聖書を読んでほしいと思います。この話はルカによる福音書 15 章 11 節以下にあります。

後半のメッセージでは、神さまの言葉について話されました。神さまは偉大な方ですが、人間にとってその声は小さくなく、うるさいとすぐに聞こえなくなります。聞こえないのは神さまのせいではなく、私たち人間のせいです。さまざまな誘惑に負け、ときには調子が良いから神さまを忘れて頼ることがなくなります。

しかし、神さまはいつも私たちに語りかけ続けてくださっています。神さまからの恵みと救いはもう始まっているのです。聖書を読んでいると難しい表現や、よくわからないたとえ話が出てきます。それは、イエスさまが答えを教えるのではなく、弟子が自ら質問することを待っているからだと言え、納得するところがありました。わたしは簡単に答えがわかると深く考えず、言葉通りに受け取ってしましますからです。自分で考え、質問し、納得したことはしっかりと自分の中に入ってきます。説教者はこう言いました。わからないこと、初歩的なこと、いまさらこんなこと聞けない、そんなことでも牧師先生やチャプレンの先生に聞いてみよう。質問を嫌がって教えてくれない先生はいないはずだと。神さまを知ること、イエスさまに仕えること、その準備はもう始まっています。

キリストを知っている者から、信じる者へ、信じる者から愛する者へ、愛する者から、キリストに生涯をかけていく者へと、その歩みへの神さまの招きは、もう始まっているのです。このキャンプで多くのイエス様の愛を経験し、神さまからの祝福と恵みに気づき、自分がつくり変えられる。コーラスは中高生の前に立ち、ステージの上から全体を見ることが出来ました。初日は、表情が固く、口もあまり開けていなかった子どもたちが、キャンプが進み、同じ世代の人たちと一緒に聖書の言葉を聞き、時に語り合うことで、表情を明るくし、大きな声で賛美をする。そのように変わっていく姿を目の当たりにし、とても励まされました。

「見よ、わたしは新しいことを行う。今、それが芽生えている。あなたがたは、それを知らないのか。必ず、わたしは荒野に道を、荒地に川を設ける。(イザヤ書 43 章 19 節)

神さまがすでに行われていることの偉大さに気づき、「神はいると思う」から「イエスが主である」と思う人が起こされるように、祈りと奉仕を続けていきたいです。